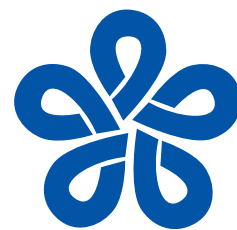


Survey on sports

県民の運動・スポーツに
関する調査報告書【概要版】



令和5年3月

福岡県

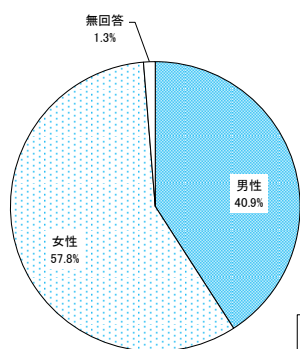
I. 調査概要

| | |
|-----------|---|
| 調査目的 | 県における県民のスポーツの実態及びスポーツ振興に係る県民のニーズを把握し、令和5年度に策定する次期「福岡県スポーツ推進計画」の基礎資料を得ることを目的とする。 |
| 調査地域 | 福岡県内全域 |
| 調査対象 | 県内に居住する18歳以上の男女個人 |
| 標本数 | 4,000サンプル |
| 標本抽出 | 層化二段無作為抽出 |
| 調査方法 | 郵送・WEB併用（郵送配布、郵送回収及びWEB回収） |
| 調査期間 | 令和4年10月28日（金）～11月20日（日） |
| 回収状況 | 有効標本回収数（未達除く3,966）に対する有効回収数1,758（有効回収率44.3%）、郵送回収1,482、WEB回収276※有効回収数の15.7% |
| 集計方法 | 県内4地域を層とし、地域ごとの人口総数を1とする人口構成比によって、各市町村の合計が100地点になるように配分。集計の際には、各地域の実人口と回収数に比例した加重集計を行い、各地域の抽出率が等しくなるようにしたため、集計回答総数は4,851となっている。 |
| 調査企画と調査実施 | 調査企画：福岡県人づくり・県民生活部スポーツ局 スポーツ企画課 調査実施：株式会社日本統計センター調査部 |

※回答率（%）は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

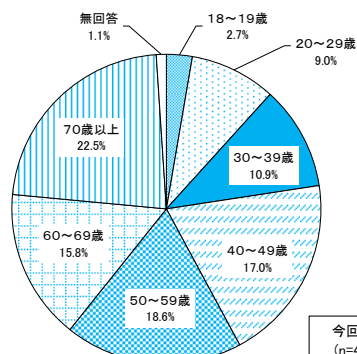
II. 標本構成

【性別】



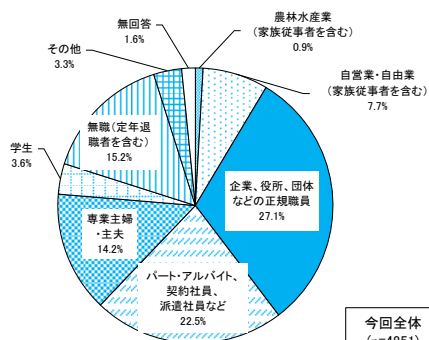
今回全体
(n=4851)

【年代別】



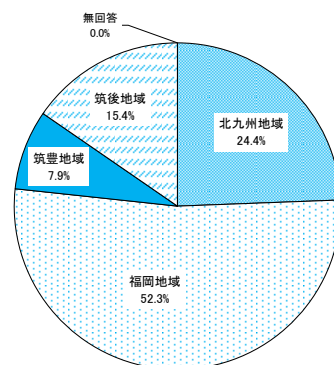
今回全体
(n=4851)

【職業別】



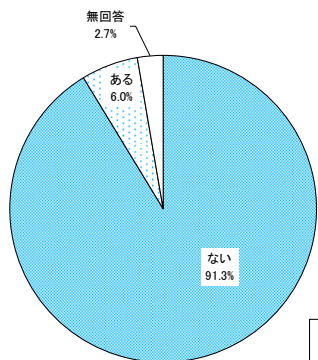
今回全体
(n=4851)

【居住地域別】



今回全体
(n=4851)

【障がいの有無別】



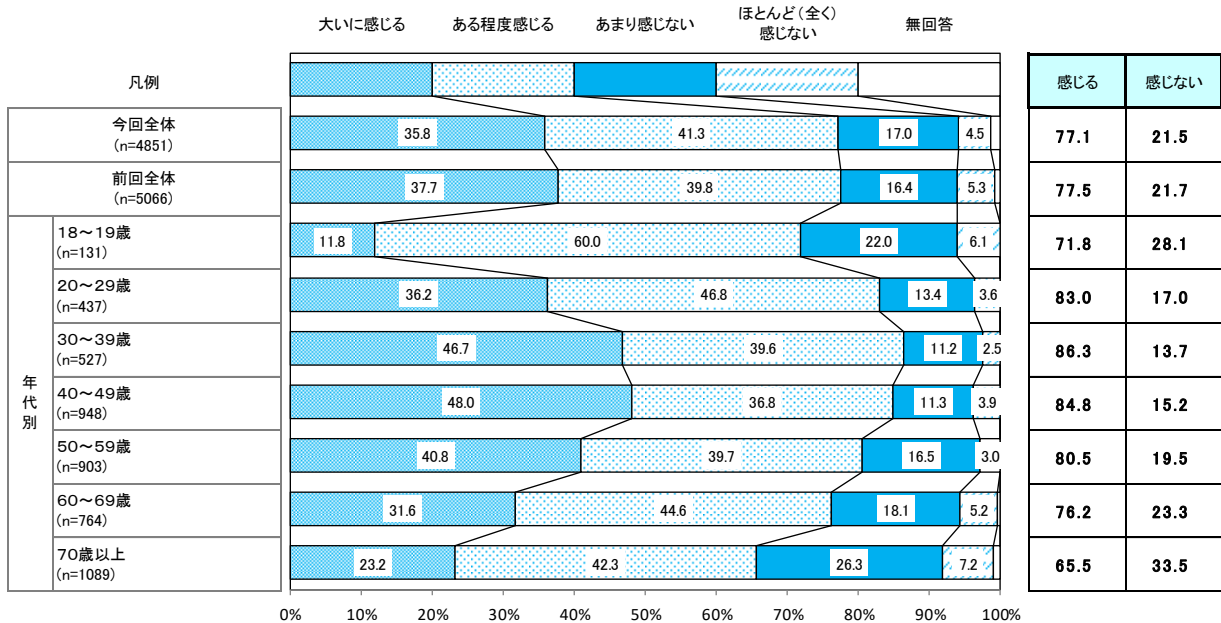
今回全体
(n=4851)

Ⅲ. 調査結果

1. 運動不足を感じることの有無

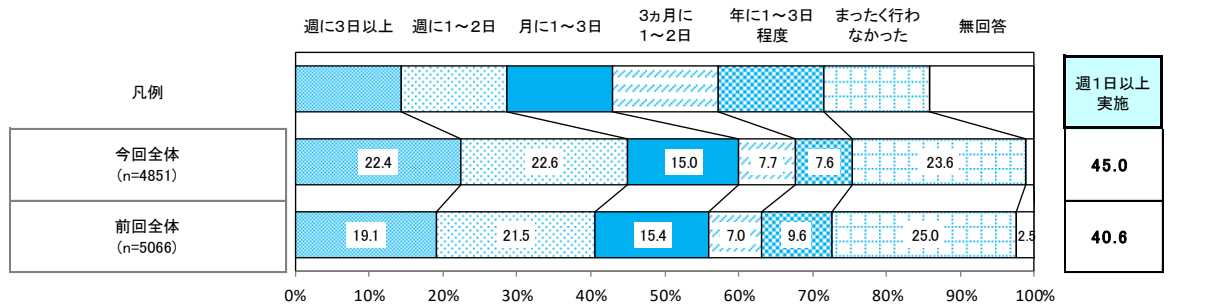
『運動不足を感じている』（「大いに感じる」35.8%、「ある程度感じる」41.3%）が77.1%、『運動不足を感じない』（「あまり感じない」17.0%、「ほとんど（全く）感じない」4.5%）が21.5%で、約8割の人が運動不足を感じている。

年代別では、20代から50代で『運動不足を感じている』割合が8割を超えており、最も『運動不足を感じている』割合が低いのは70歳以上（65.5%）である。



2. この1年間に行った運動やスポーツの実施頻度と種類

この1年間に行った運動やスポーツの頻度では、『週1回以上』（「週に1～2日」22.6%「週に3日以上」22.4%）が45.0%で、前回回（36.3%）、前回（40.6%）と上昇傾向にある。



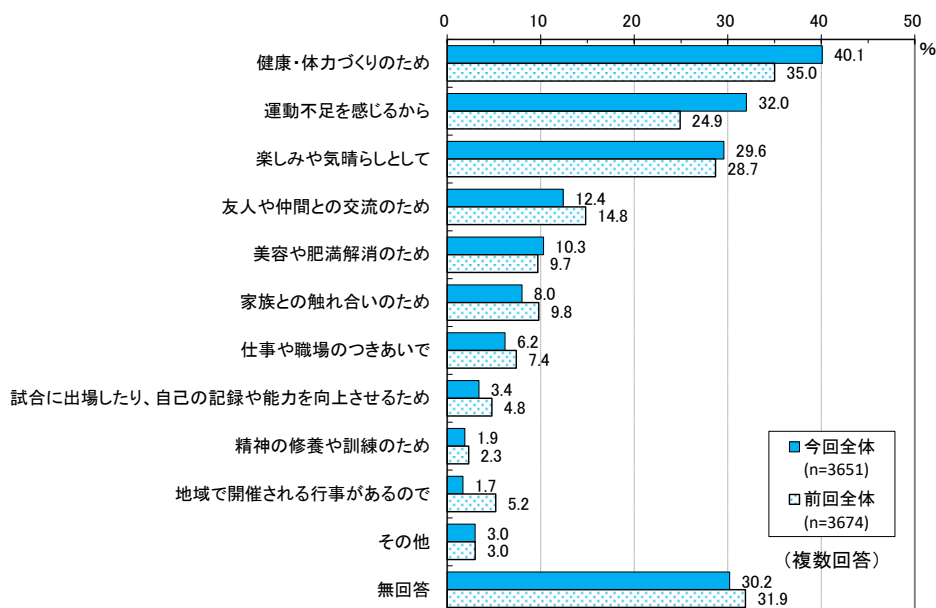
この1年間に行った運動やスポーツの種類では、「ウォーキング（散歩、一駅歩きなど含む）」（50.8%）が5割を超え、前回（32.8%）に比べると大幅に上昇している。次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス含む）」（18.5%）、「ジョギング・ランニング」（8.6%）、「ゴルフ（練習場、シミュレーションゴルフ含む）」「屋内アスレチック運動（トレーニング含む）」（7.8%）となっている。

障がいのある人がこの1年間に行った運動やスポーツでは、全体同様「ウォーキング（散歩、一駅歩きなど含む）」（30.0%）の割合が最も高く、次が「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス含む）」（18.5%）である。

3. 運動やスポーツを行った理由とまったく行わなかった理由

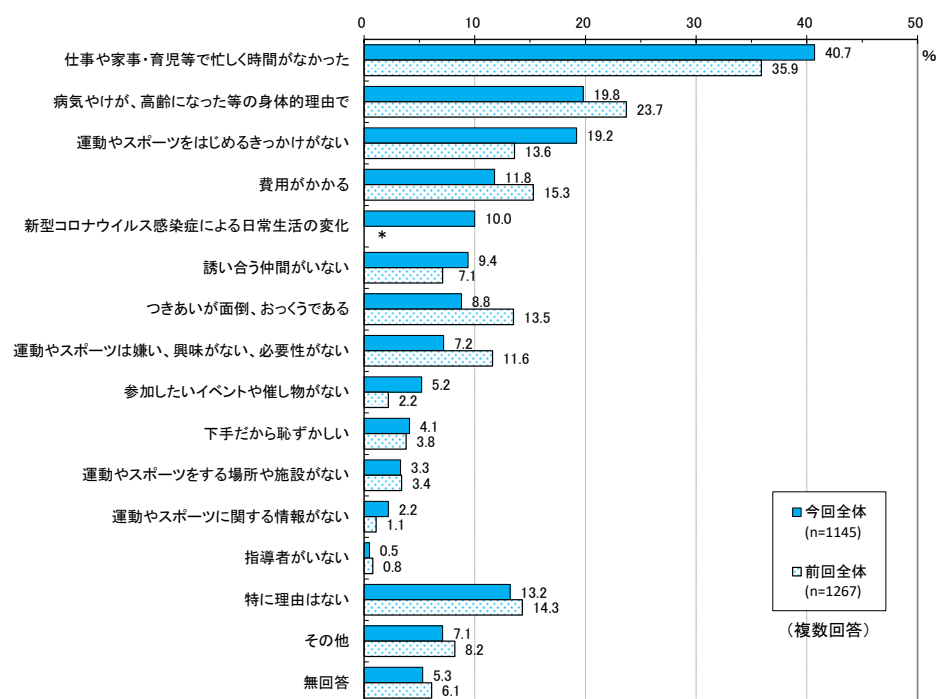
運動やスポーツを行った理由では「健康・体力づくりのため」(40.1%)が最も高く、次いで「運動不足を感じるから」(32.0%)、「楽しみや気晴らしとして」(29.6%)となっている。前回と比べて大きな違いはないが、「運動不足を感じるから」は前回から7.1ポイント上昇した。

【運動やスポーツを行った理由】



この1年間にまったく運動やスポーツを行わなかった理由では、「仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった」(40.7%)が最も高く、次いで「病気やけが、高齢になった等の身体的理由で」(19.8%)、「運動やスポーツをはじめるときかけがない」(19.2%)、「費用がかかる」(11.8%)、「新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化」(10.0%)となっている。前回と比べると「運動やスポーツをはじめるときかけがない」が「費用がかかる」を上回っている。

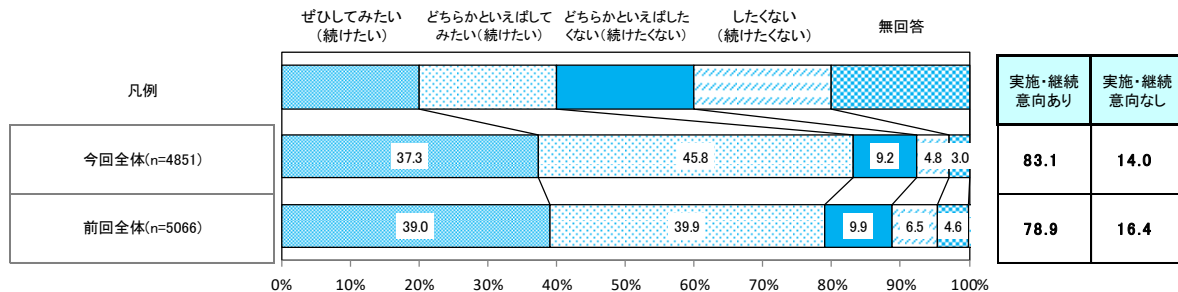
【運動やスポーツをまったく行わなかった理由】



(注)*「新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化」は今回追加した項目

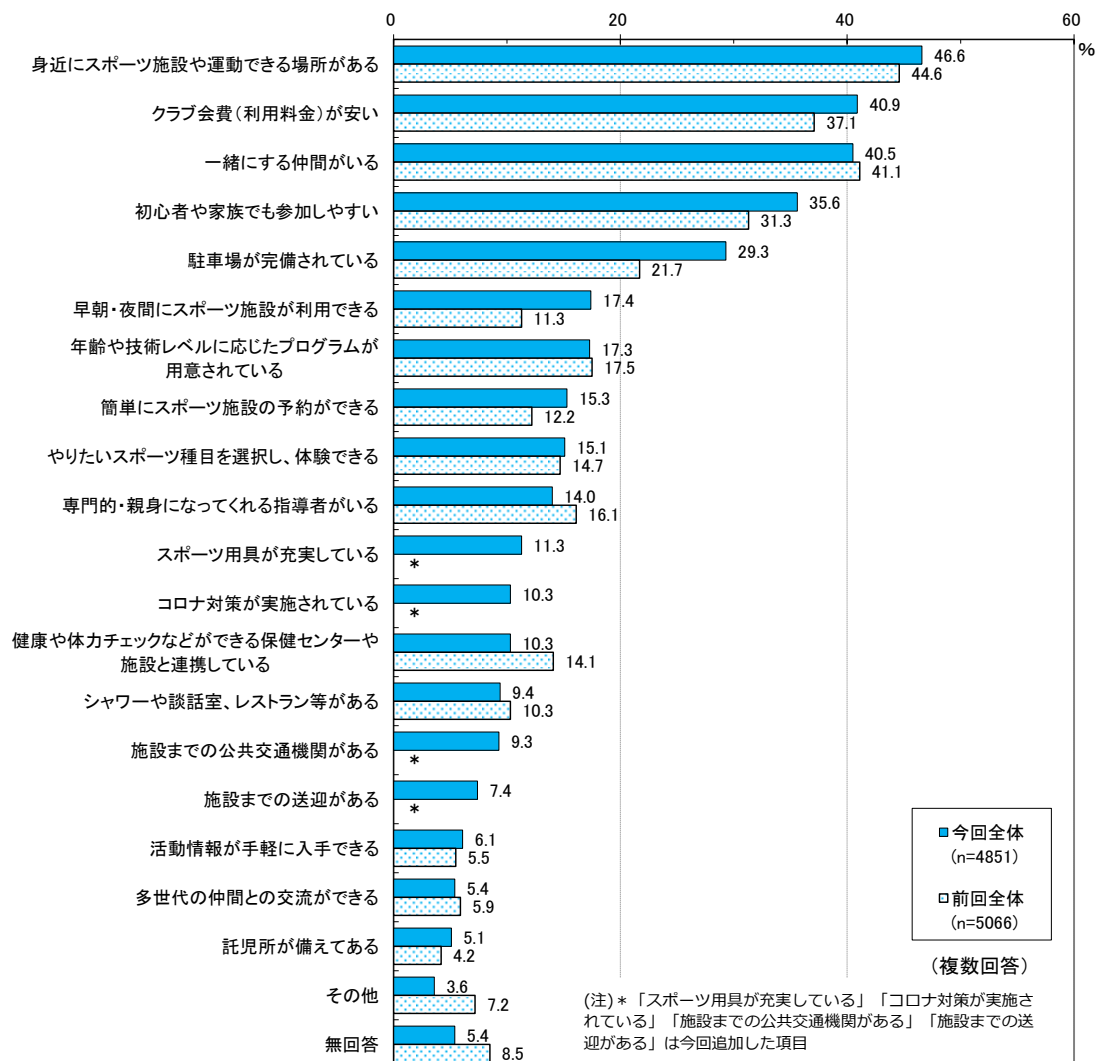
4. 今後の運動やスポーツの実施（継続）意向

『実施（継続）意向あり』（「ぜひしてみたい（続けたい）」37.3%、「どちらかといえばしてみたい（続けたい）」45.8%）が83.1%と8割を超え、前回から4.2ポイント上昇した。



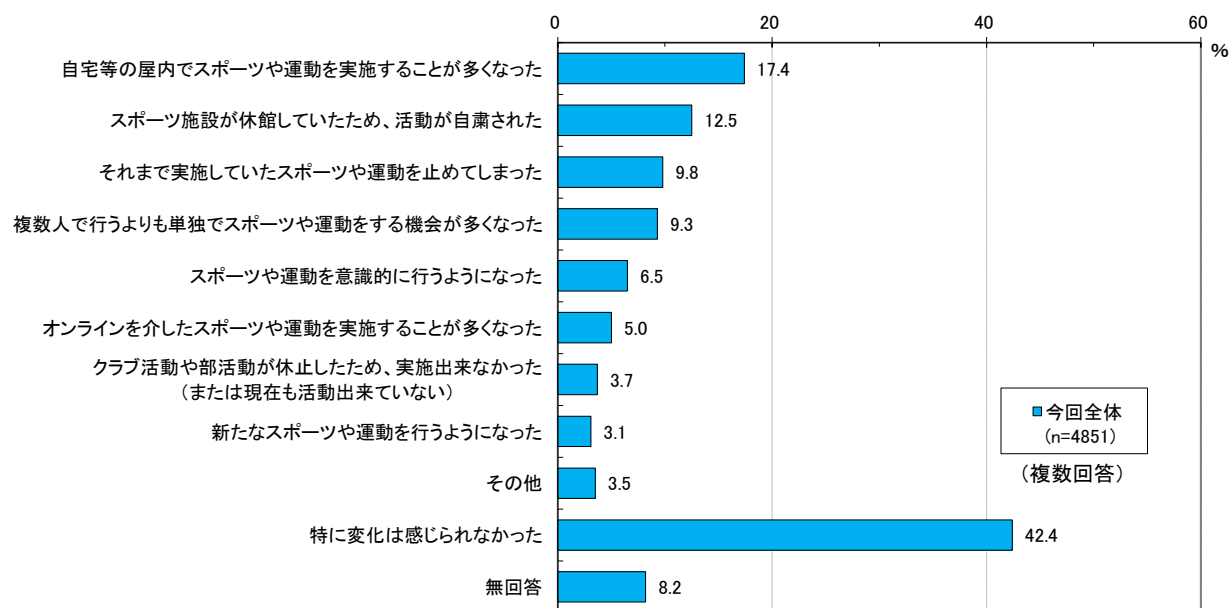
5. 運動やスポーツを行う（継続する）ための条件

「身近にスポーツ施設や運動できる場所がある」（46.6%）、「クラブ会費（利用料金）が安い」（40.9%）、「一緒にする仲間がいる」（40.5%）で4割を超え、次いで「初心者や家族でも参加しやすい」（35.6%）、「駐車場が完備されている」（29.3%）となっている。前回と比べ傾向に大きな変化はないが、「駐車場が完備されている」は、今回7.6ポイント、「早朝・夜間にスポーツ施設が利用できる」は今回6.1ポイント上昇しており、駐車場があることや人が少ない時間帯に利用可能なことが、運動やスポーツを継続するための条件として重視されている。



6. 新型コロナウイルス感染症発生前後で運動・スポーツの面での変化

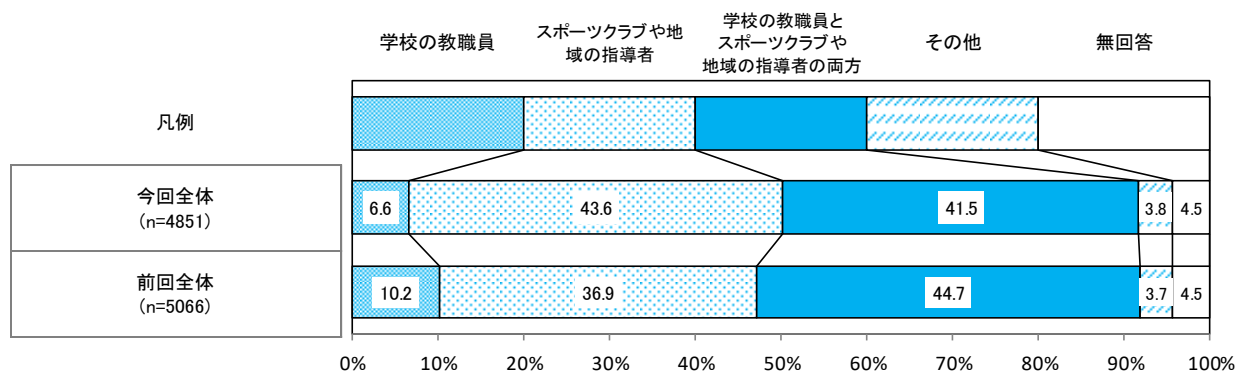
新型コロナウイルス感染症の発生によって、約5割の人が運動・スポーツの面で何らかの影響を受けている。影響を受けた内容では、「自宅等の屋内でスポーツや運動を実施することが多くなった」（17.4%）が最も高く、次いで「スポーツ施設が休館していたため、活動が自粛された」（12.5%）、「それまで実施していたスポーツや運動を止めてしまった」（9.8%）、「複数人で行うよりも単独でスポーツや運動をする機会が多くなった」（9.3%）となっている。



7. 望ましい運動部活動の指導者

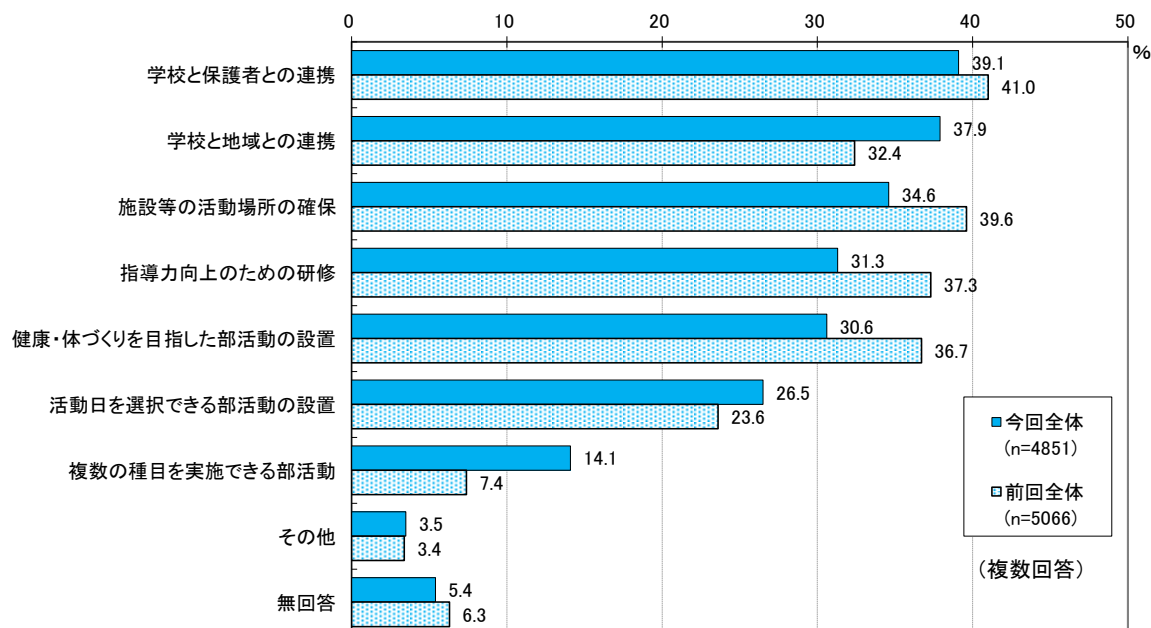
「スポーツクラブや地域の指導者」（43.6%）が最も高く、次いで「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」（41.5%）、「学校の教職員」（6.6%）となっている。

前年に比べると、「学校の教職員とスポーツクラブや地域の指導者の両方」を「スポーツクラブや地域の指導者」が上回り、「学校の教職員」の割合も低下している。



8. よりよい運動部活動に必要なこと

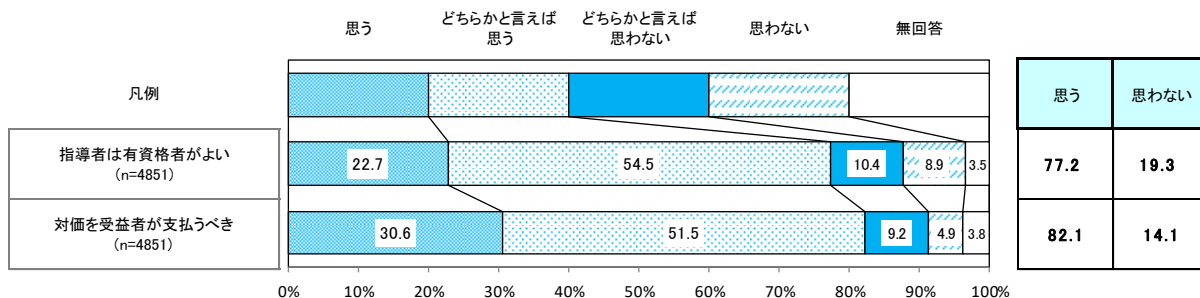
「学校と保護者との連携」(39.1%)が最も高く、次いで「学校と地域との連携」(37.9%)、「施設等の活動場所の確保」(34.6%)、「指導力向上のための研修」(31.3%)、「健康・体づくりを目指した部活動の設置」(30.6%)となっている。



(注)「学校と保護者との連携」は前回「保護者との連携」、「学校と地域との連携」は前回「地域との連携」、「複数の種目を実施できる部活動」は前回「シーズン制等による複数種目実施の部活動の設置」と表現が違うが、参考までに前回数値を掲載している。

9. スポーツ指導者について

スポーツの指導者は『有資格者がよい』(「思う」22.7%、「どちらかと言えば思う」54.5%)が77.2%、スポーツの指導者に対する対価(謝金、礼金)を受益者が『支払うべき』(「思う」30.6%、「どちらかと言えば思う」51.5%)が82.1%で、いずれも8割程度を占めている。



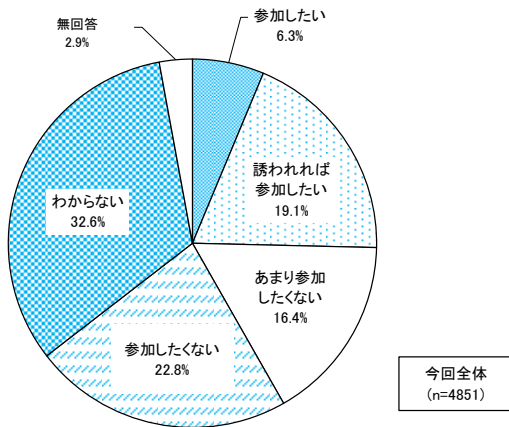
10. この1年間にスポーツ観戦をした内容

この1年間にスポーツ観戦した内容では、「テレビ」(78.8%)が圧倒的に高く、「You Tube等のインターネット配信」(20.2%)、「競技場や体育館・スタジアム等」(19.3%)、「DAZN等の会員専用有料配信・放送」(4.8%)となっており、「観戦していない」が12.9%である。

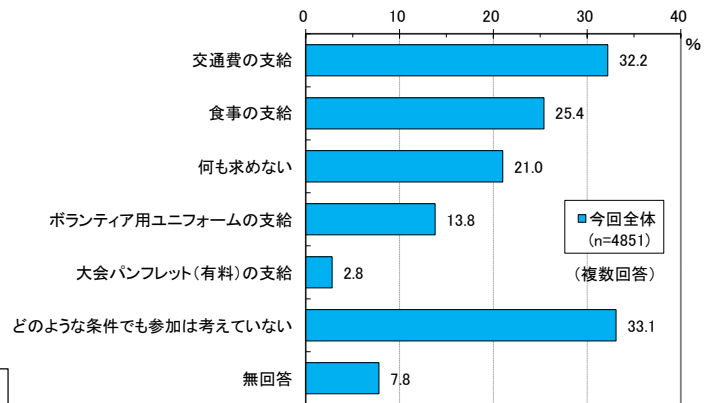
1 1. スポーツにかかわるボランティア活動

スポーツにかかわるボランティア活動の『参加意向あり』（「参加したい」6.3%、「誘われれば参加したい」19.1%）が25.4%である。参加するための条件では「どのような条件でも参加は考えていない」（33.1%）、「交通費の支給」（32.2%）、「食事の支給」（25.4%）、「何も求めない」（21.0%）となっている。

【ボランティア活動への参加意向】



【ボランティア活動に参加する条件】

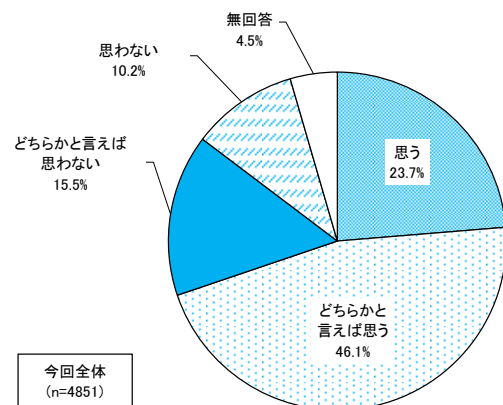


1 2. 福岡県内で大規模国際スポーツ大会を継続的に開催することについて

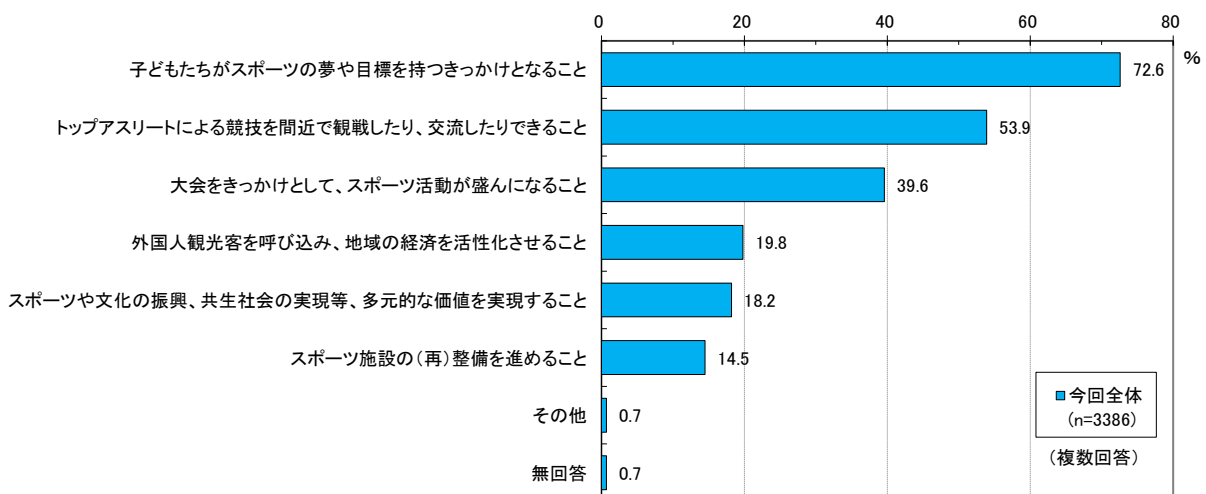
『継続的に開催してほしい』（「思う」23.7%、「どちらかと言えばそう思う」46.1%）が69.8%と約7割が大規模国際スポーツ大会の継続的開催を望んでいる。

継続的な開催を望む人が大規模国際スポーツ大会に期待することでは「子どもたちがスポーツの夢や目標を持つきっかけとなること」（72.6%）が最も高く、次いで「トップアスリートによる競技を間近で観戦したり、交流したりできること」（53.9%）、「大会をきっかけとして、スポーツ活動が盛んになること」（39.6%）となっている。

【継続的開催について】



【大規模スポーツ大会に期待すること】

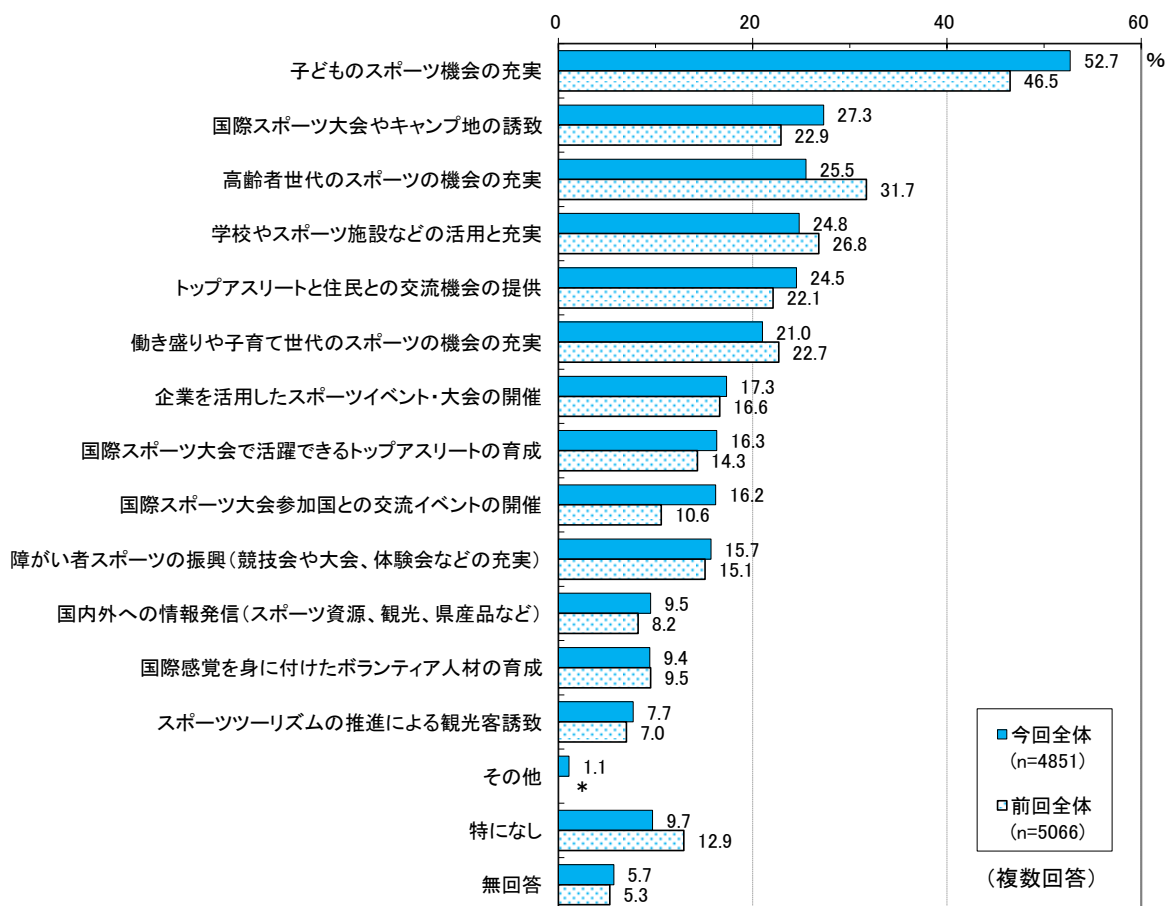


13. スポーツを通じた地域活性化について

スポーツは地域活性化に役立つと『思う』（「思う」32.3%、「どちらかと言えば思う」53.1%）が85.4%と8割を大きく超えている。

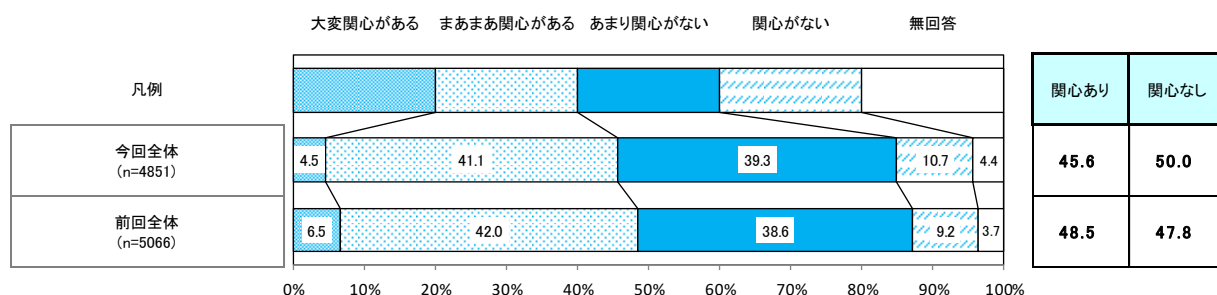
スポーツを活かした方策として地方自治体に期待することでは、「子どものスポーツ機会の充実」（52.7%）が最も高く、次いで「国際スポーツ大会やキャンプ地の誘致」（27.3%）、「高齢者世代のスポーツの機会の充実」（25.5%）、「学校やスポーツ施設などの活用と充実」（24.8%）、「トップアスリートと住民との交流機会の提供」（24.5%）、「働き盛りや子育て世代のスポーツの機会の充実」（21.0%）となっている。

【スポーツを活かした地域活性化策として地方自治体に期待すること】



14. 障がい者スポーツへの関心の有無

障がい者スポーツに『関心がある』（「大変関心がある」4.5%、「まあまあ関心がある」41.1%）が45.6%で、前回と比べると『関心がある』の割合は2.9ポイント減少した。

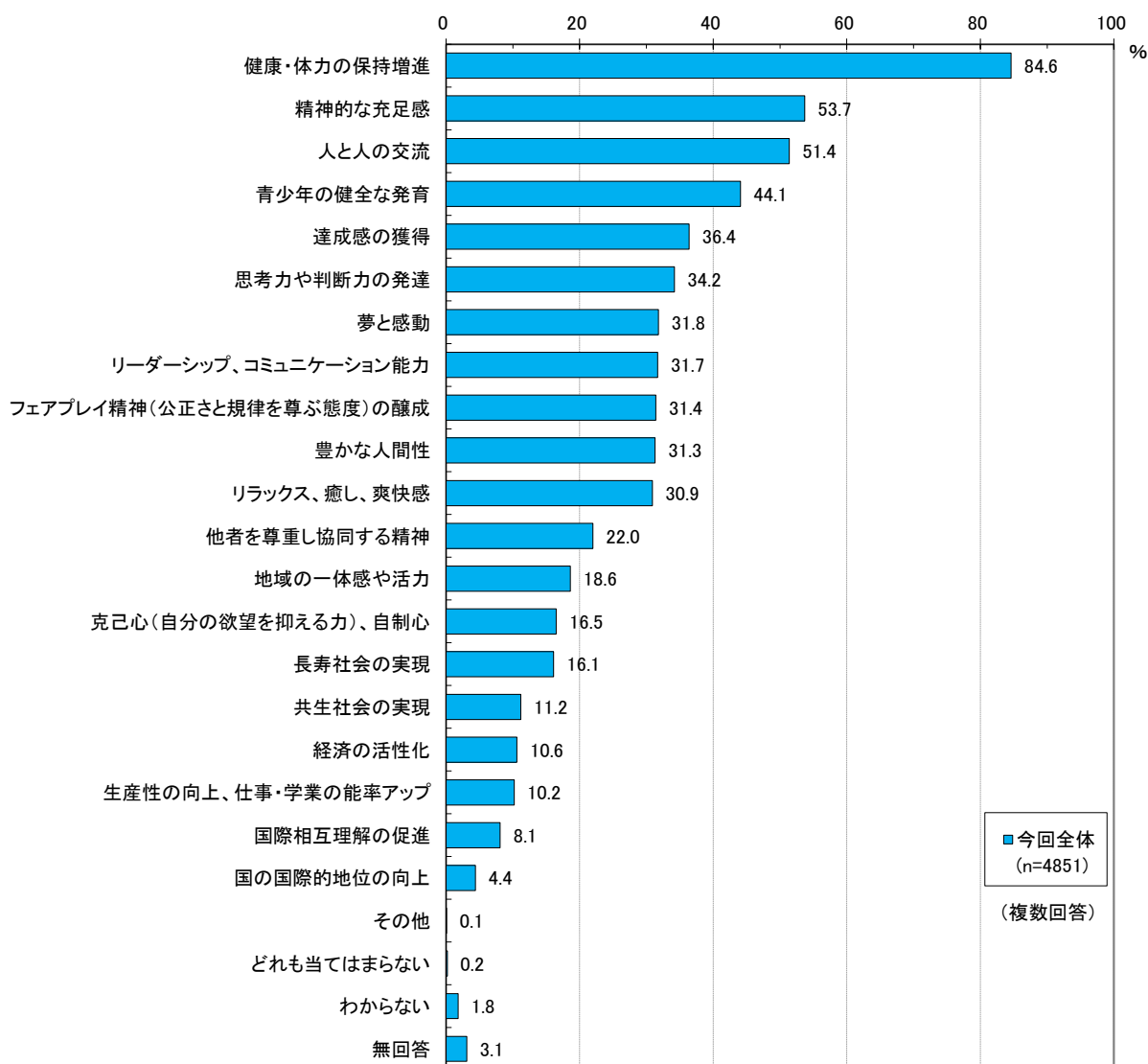


15. 障がいのある方が、よりスポーツ活動に参加するために必要なこと

「障がい者スポーツ活動ができる施設」(72.9%)が最も高い。次いで「障がい者スポーツ指導者」(49.1%)、「施設までのアクセスの良さ(公共交通機関や、施設までの送迎がある)」(45.8%)、「障がい者スポーツ活動を行っているクラブ・教室」(40.4%)、「障がい者スポーツ情報(クラブ・教室、施設等)の充実」(40.2%)、「一緒にスポーツ活動をする仲間がいる」(40.1%)、「施設の利用手続き、料金の支払い方法の簡略化」(21.1%)となっている。

16. スポーツが個人や社会にもたらす効果

「健康・体力の保持増進」(84.6%)が最も高く、次いで「精神的な充足感」(53.7%)、「人と人の交流」(51.4%)、「青少年の健全な発育」(44.1%)、「達成感の獲得」(36.4%)、「思考力や判断力の発達」(34.2%)、「夢と感動」(31.8%)、「リーダーシップ、コミュニケーション能力」(31.7%)、「フェアプレイ精神(公正さと規律を尊ぶ態度)の醸成」(31.4%)、「豊かな人間性」(31.3%)、「リラックス、癒し、爽快感」(30.9%)となっている。



県民の運動・スポーツに関する調査報告書【概要版】

令和5年3月

福岡県人づくり・県民生活部スポーツ局 スポーツ企画課

〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号

TEL (092) 643-3407

FAX (092) 643-3408

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp>

